

II. 調査結果の分析

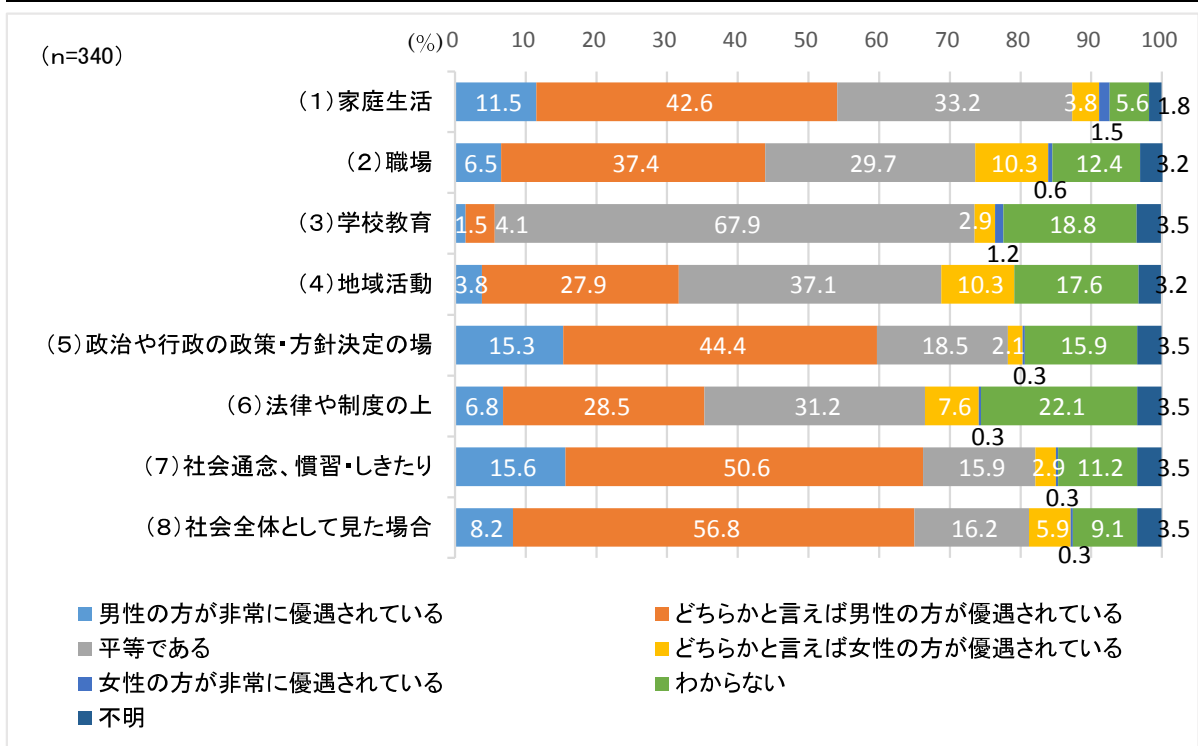
1. 男女平等について

(1) 社会全体における男女平等

問1：あなたは、次の分野において男女は平等になっていると思いますか。
(考えに近いものを1つ選ぶ)

「学校教育」では、「平等である」と考える人の割合が67.9%と高くなっているものの、それ以外の分野においては、「男性のほうが非常に優遇」、「どちらかと言えば男性のほうが優遇されている」と答えた人の割合が「社会通念、慣習・しきたり」66.2%、「社会全体として見た場合」65.0%、「政治や行政の政策・方針決定の場合」59.7%、「家庭生活」55.1%の順で高くなっており、半数を超えている。

男性と女性の優遇度合いを数値化(※)したところ、「学校教育」以外のほとんどの分野で、男性の方が優遇されていると感じる傾向がみられる。



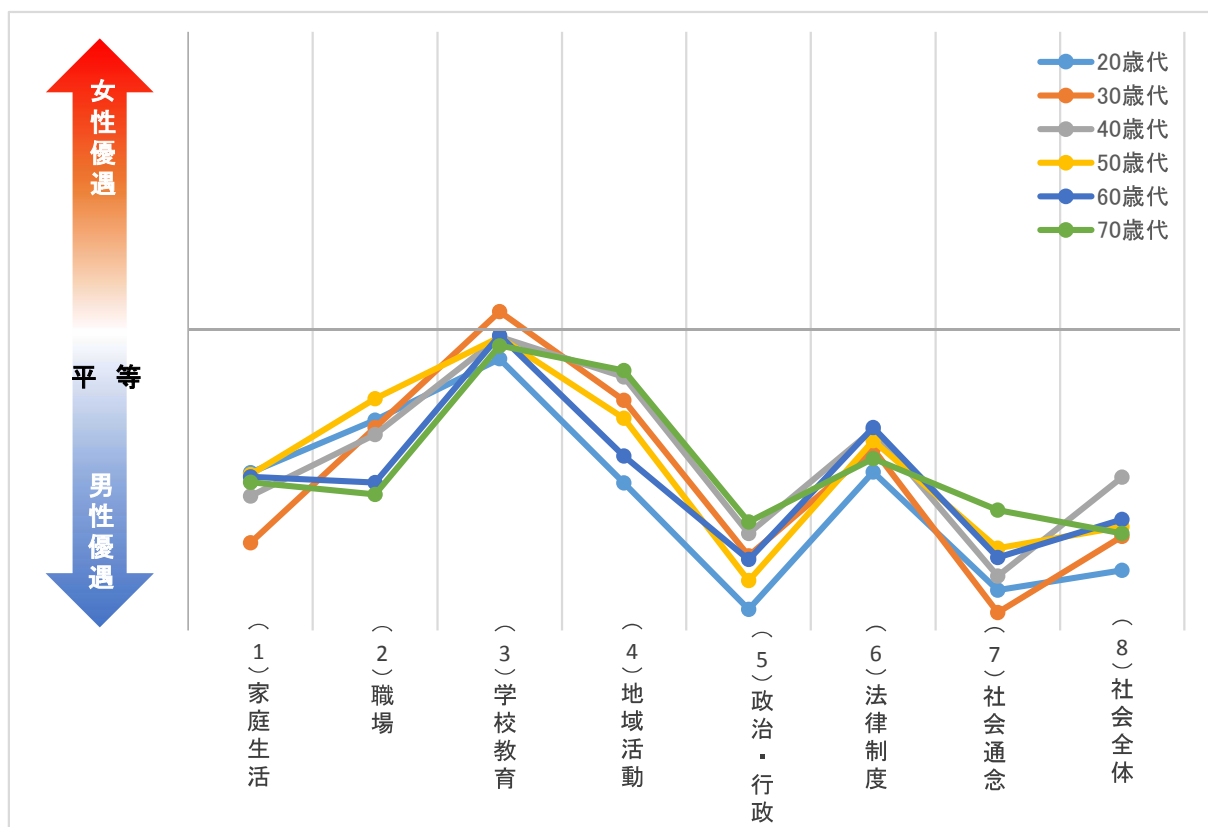
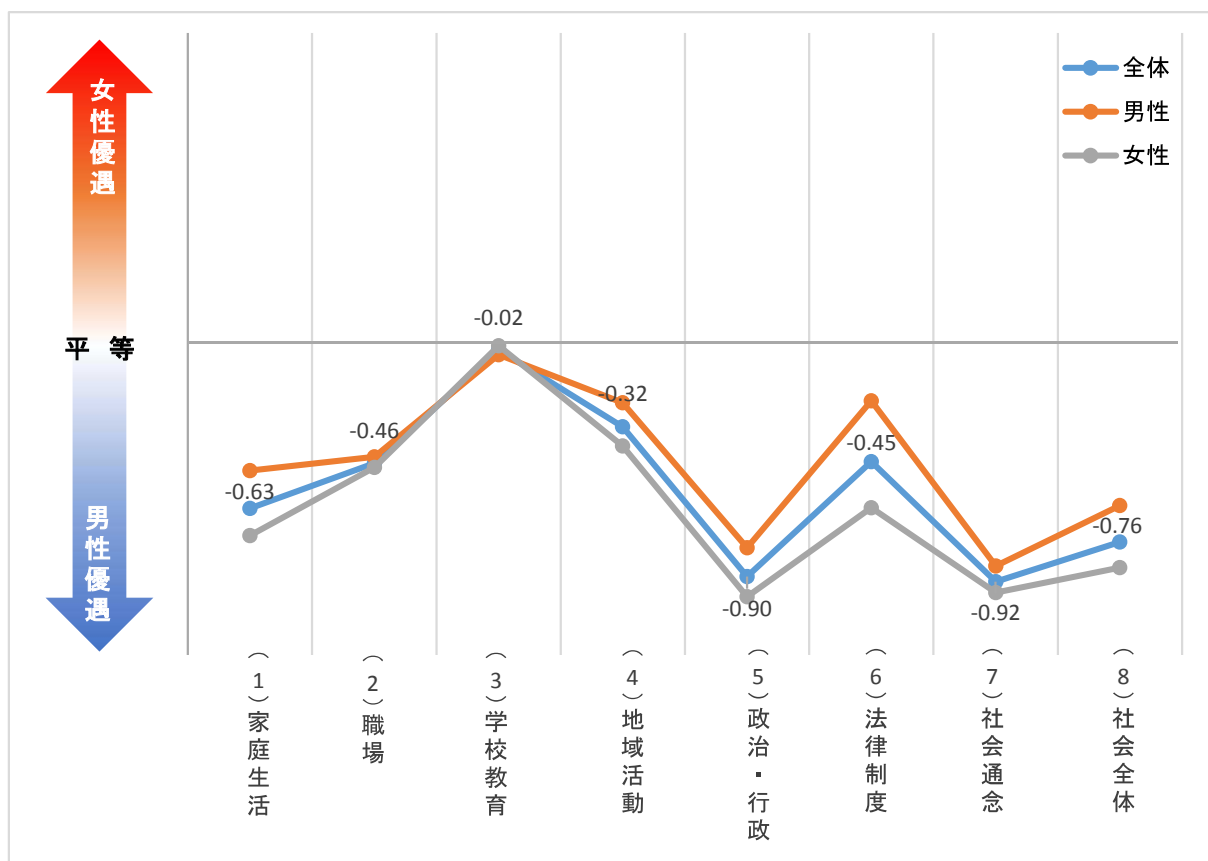
※各回答を以下のとおり得点化し、回答数で割り戻して数値化したもの

「男性の方が非常に優遇されている」＝－2点

「どちらかと言えば男性の方が優遇されている」＝－1点

「女性の方が非常に優遇されている」＝2点

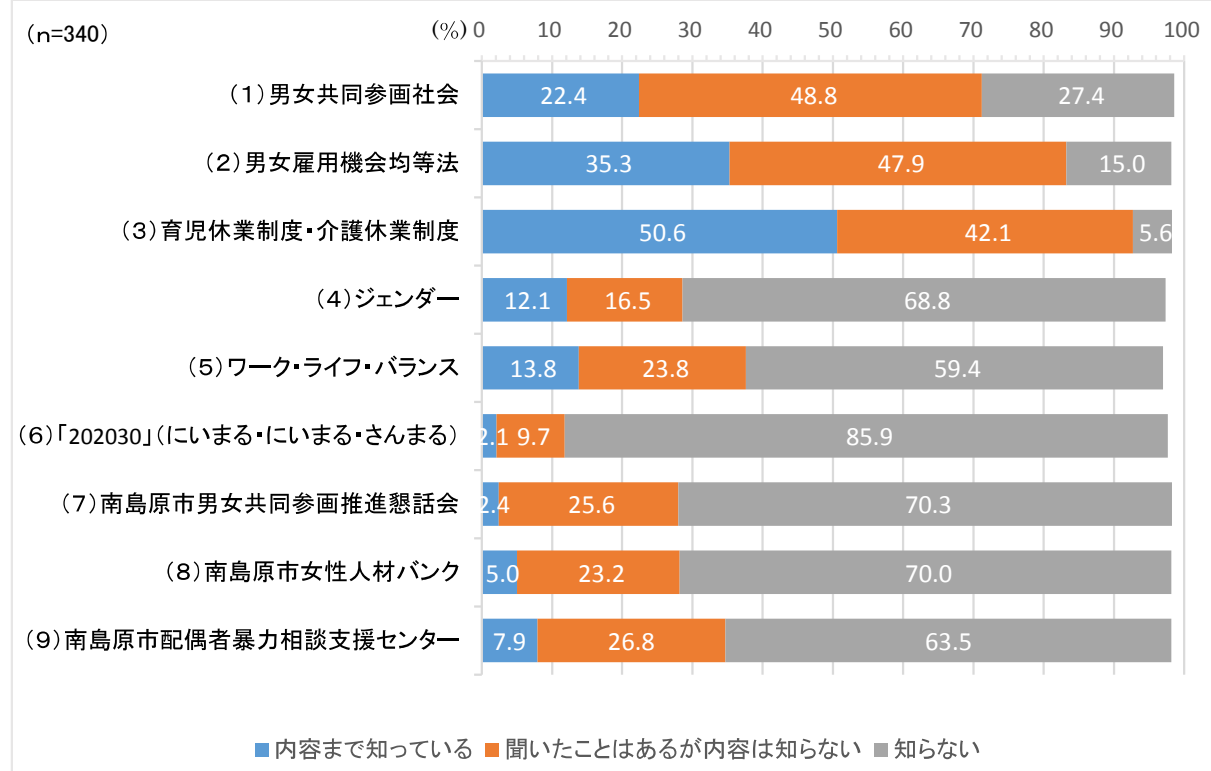
「どちらかと言えば女性の方が優遇されている」＝1点



(2)男女共同参画に関連する言葉の認知度

問2：あなたは、次にあげる言葉を知っていますか。

「育児休業制度・介護休業制度」の認知度（「内容まで知っている」と「聞いたことはあるが内容までは知らない」の合計）が92.1%で最も高く、次いで「男女雇用機会均等法」83.2%、「男女共同参画社会」71.2%の順となっている。一方、これら以外の言葉については認知度が低く、「202030」が11.8%で最も低い。

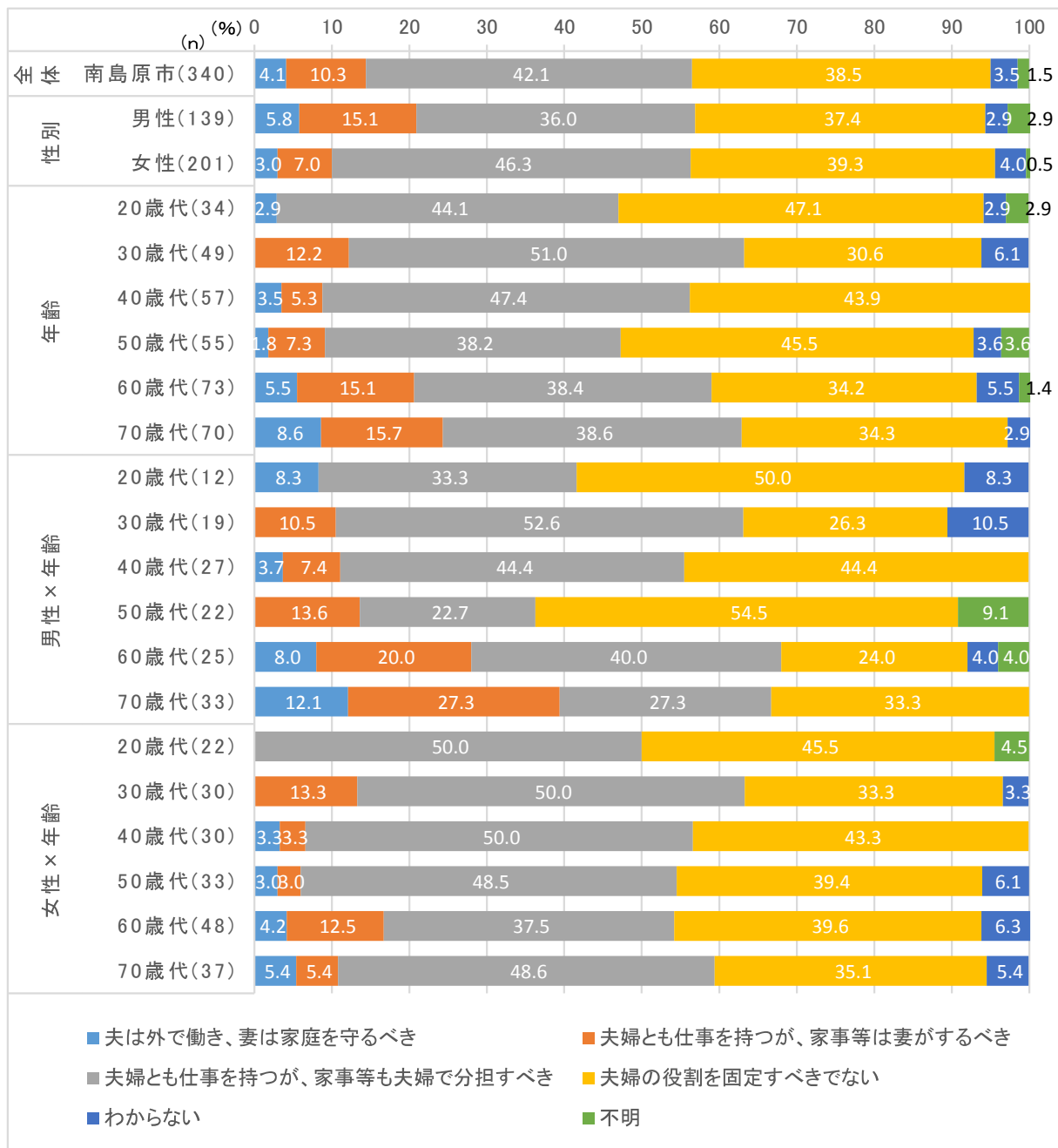


2. 家庭生活・地域活動について

(1) 家庭生活における夫婦の役割分担についての考え方

問3：家庭生活における夫婦の役割分担について、あなたの考えに最も近いものを1つお選びください。

「夫婦とも仕事を持つが、家事等夫婦で分担すべき」と考える人が42.1%、「夫婦の役割を固定すべきでない」と考える人が38.5%と高くなっている。年齢別でみると、20歳代から50歳代までは60歳代以上に比べて、この2つの考え方が占める割合がより高い傾向がみられる。

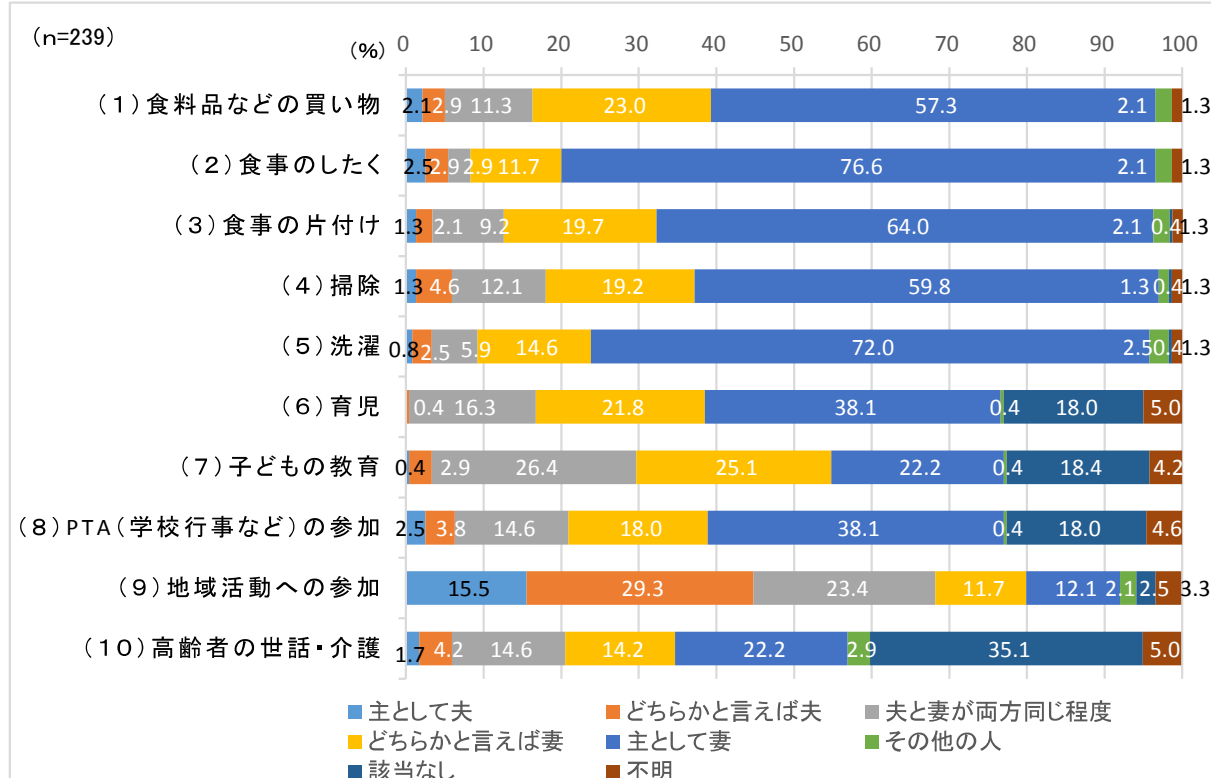


(2)家庭内での役割分担と意思決定

問4：あなたの家庭では家事等の分担をどうしていますか。また、家計費の管理などについて最終的に決定しているのはどなたですか。

(※結婚している人または未婚だがパートナーと暮らしている人のみ)

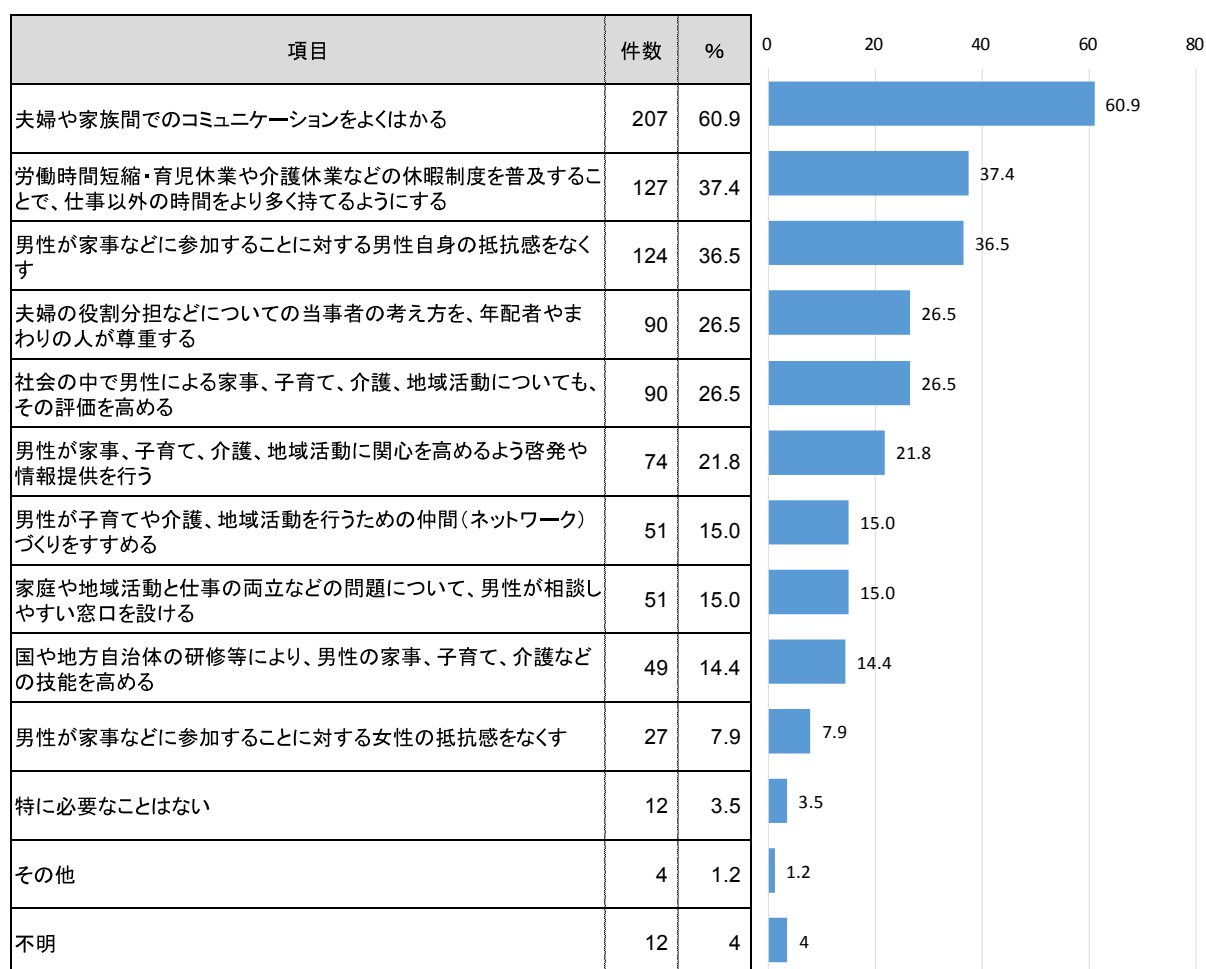
(1)～(5)の家事については、「主として妻」の割合が高く、いずれも半数を超えている。また、「育児」など子育ての項目についても「主として妻」または「どちらかと言えば妻」の割合が高い傾向がみられる。一方、「地域活動への参加」は、「主として夫」または「どちらかと言えば夫」の割合が44.8%と高くなっている。



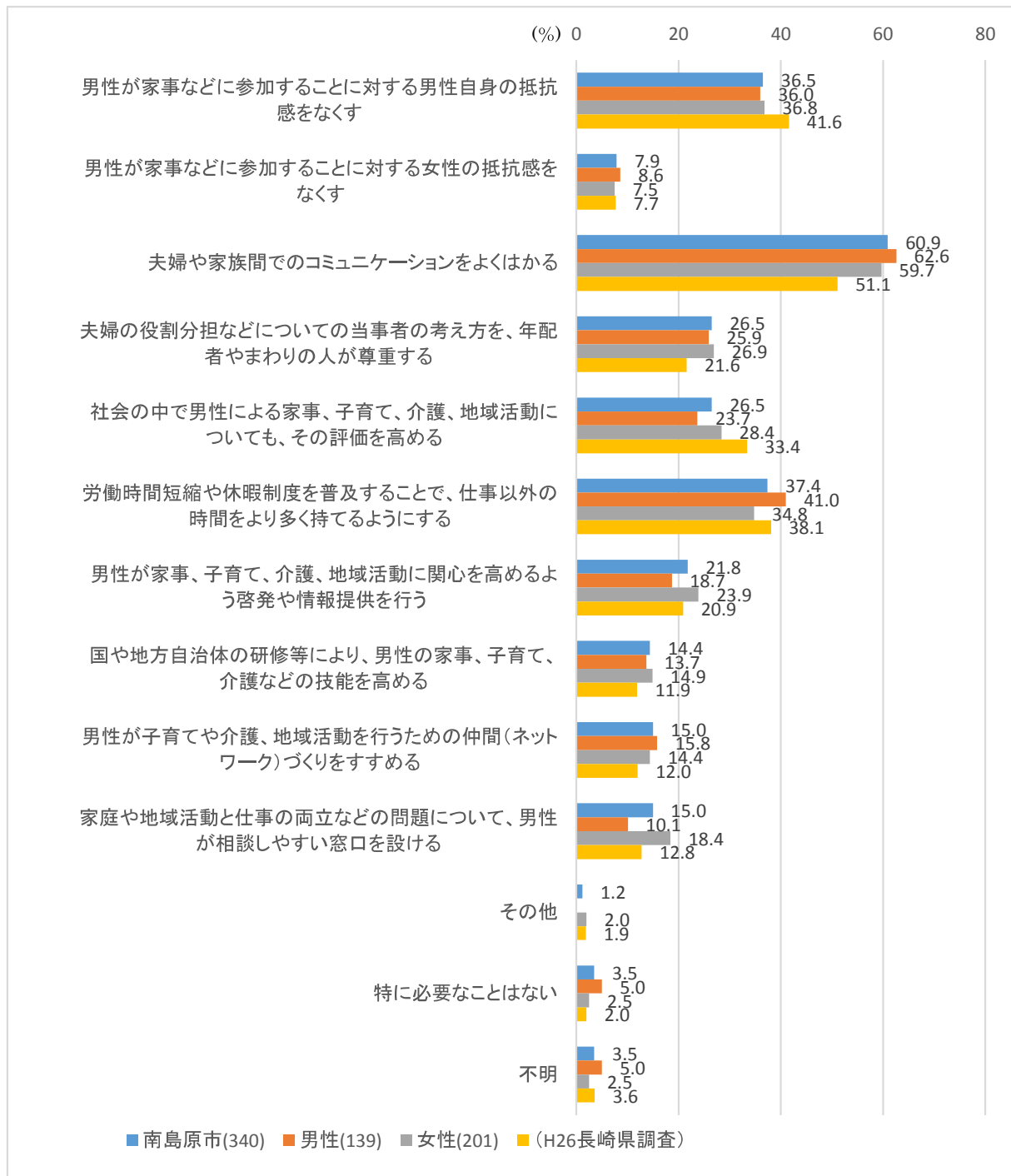
(3)男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと

問5：今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（3つまで選ぶ）

「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」と回答した人の割合が60.9%で最も高い。長崎県調査と比べても10ポイント程度高く、特徴的な傾向といえる。次いで、「労働時間短縮・育児休業や介護休業などの休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」37.4%、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」36.5%の割合が高くなっている。



[全体・性別・(長崎県調査)]

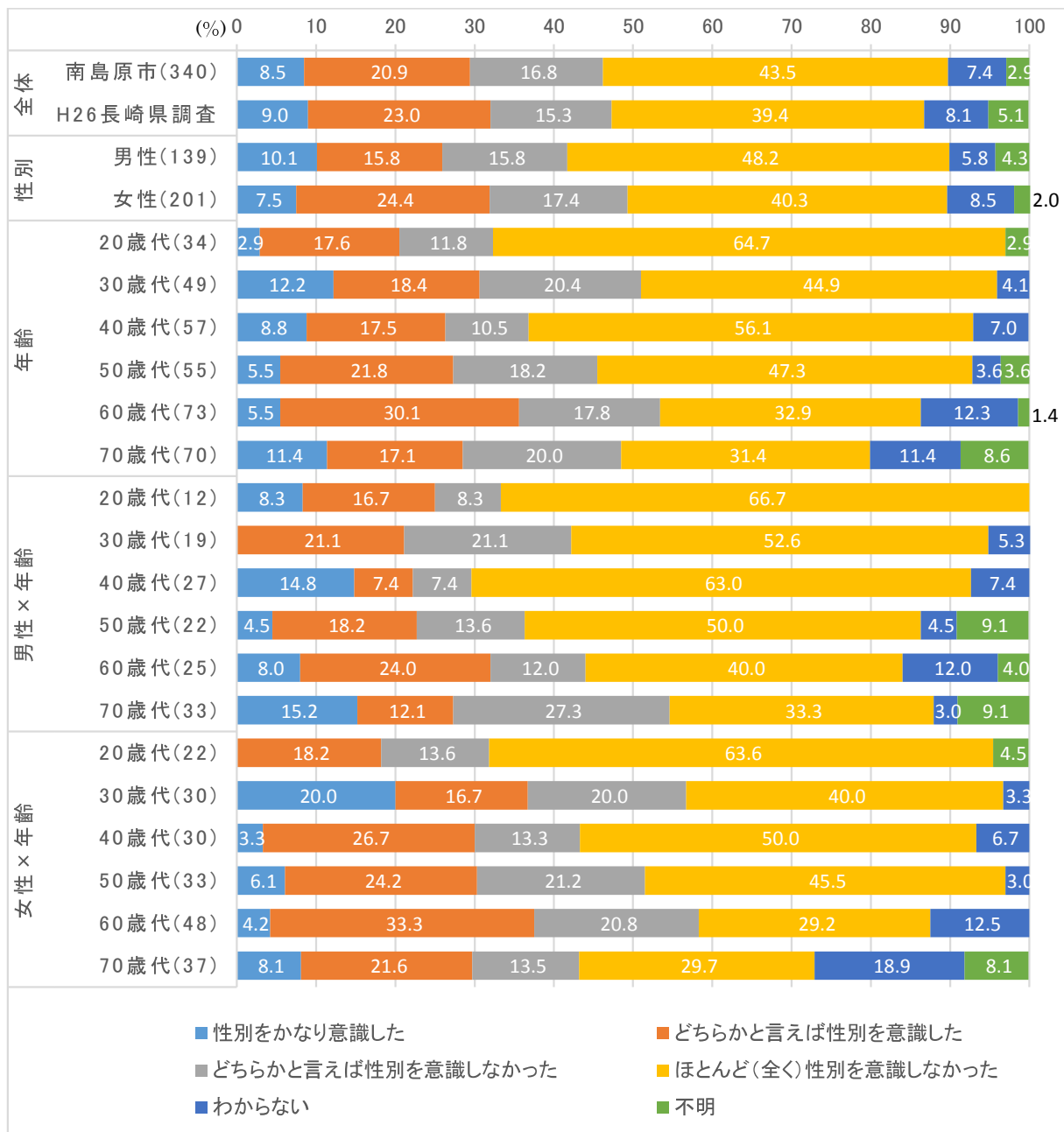


3. 就労およびワーク・ライフ・バランスについて

(1) 進路・職業選択

問6：あなたは、進路や職業を選択する際に、性別を意識しましたか。
(考えに近いものを1つ選ぶ)

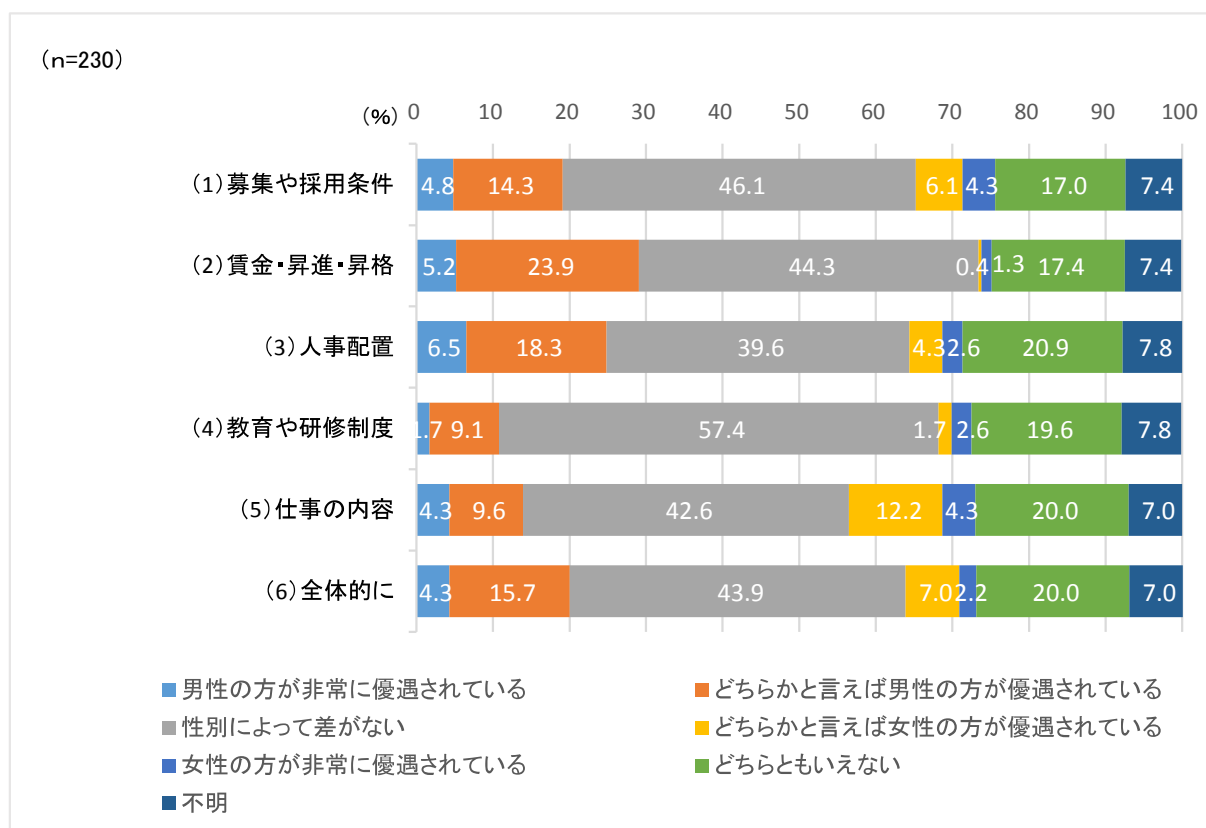
性別を意識した（「性別をかなり意識した」と「どちらかと言えば性別を意識した」の合計）
人の割合は29.4%となっている。男女別では、女性の方が意識したと回答した割合が高く、年齢
別では30歳代、60歳代で高い。



(2)勤務先での性別による仕事や待遇面での差

問7：あなたの職場では、次にあげるそれぞれの場面で性別によって差があると思いますか。（※現在働いている人のみ）

全ての項目において「性別によって差がない」と回答した人の割合が最も多く、その割合が最も高いのは「教育や研修制度」（57.4%）であり、最も低いのは「人事配置」（39.6%）となっている。また、男性と女性のどちらが優遇されていると感じているか、その度合いを数値化（※）したところ、「仕事の内容」以外の項目については、男性の方が優遇されていると感じている傾向にある。



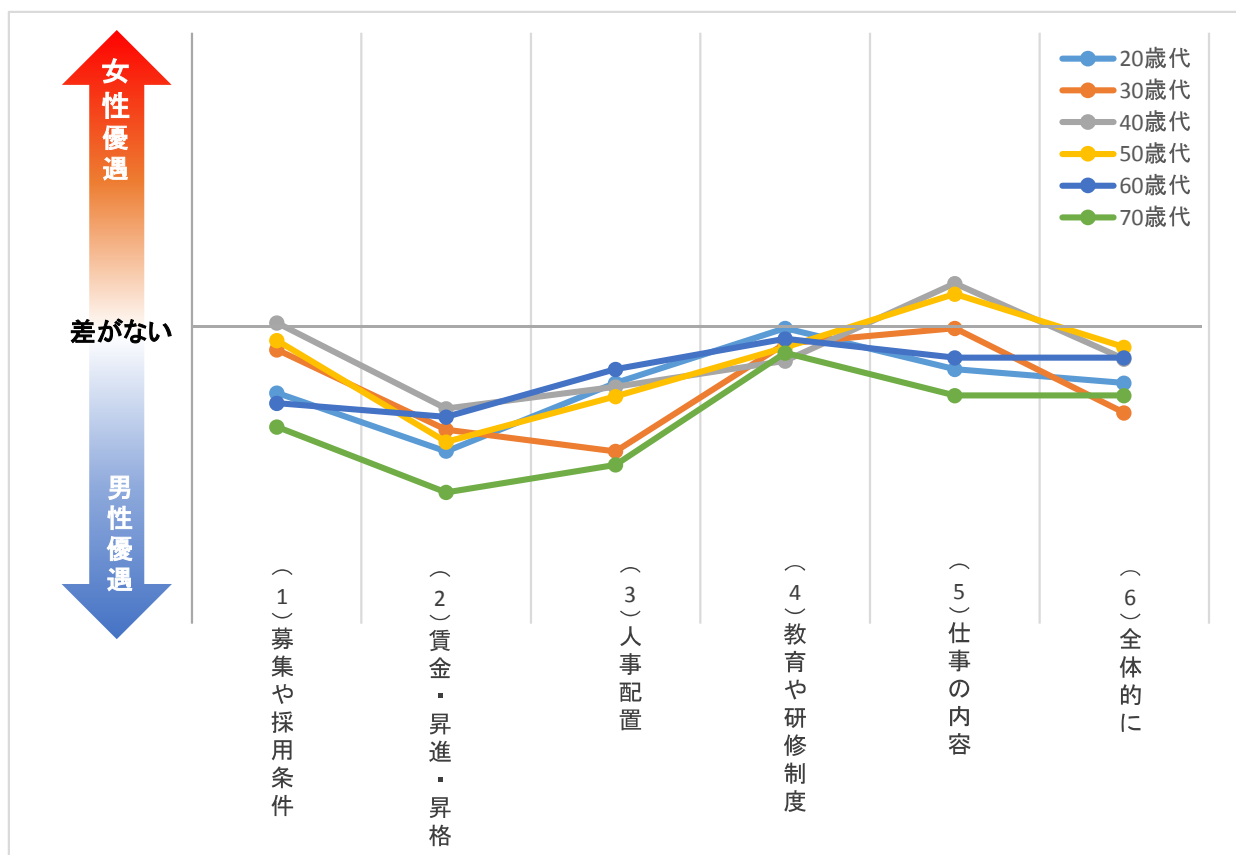
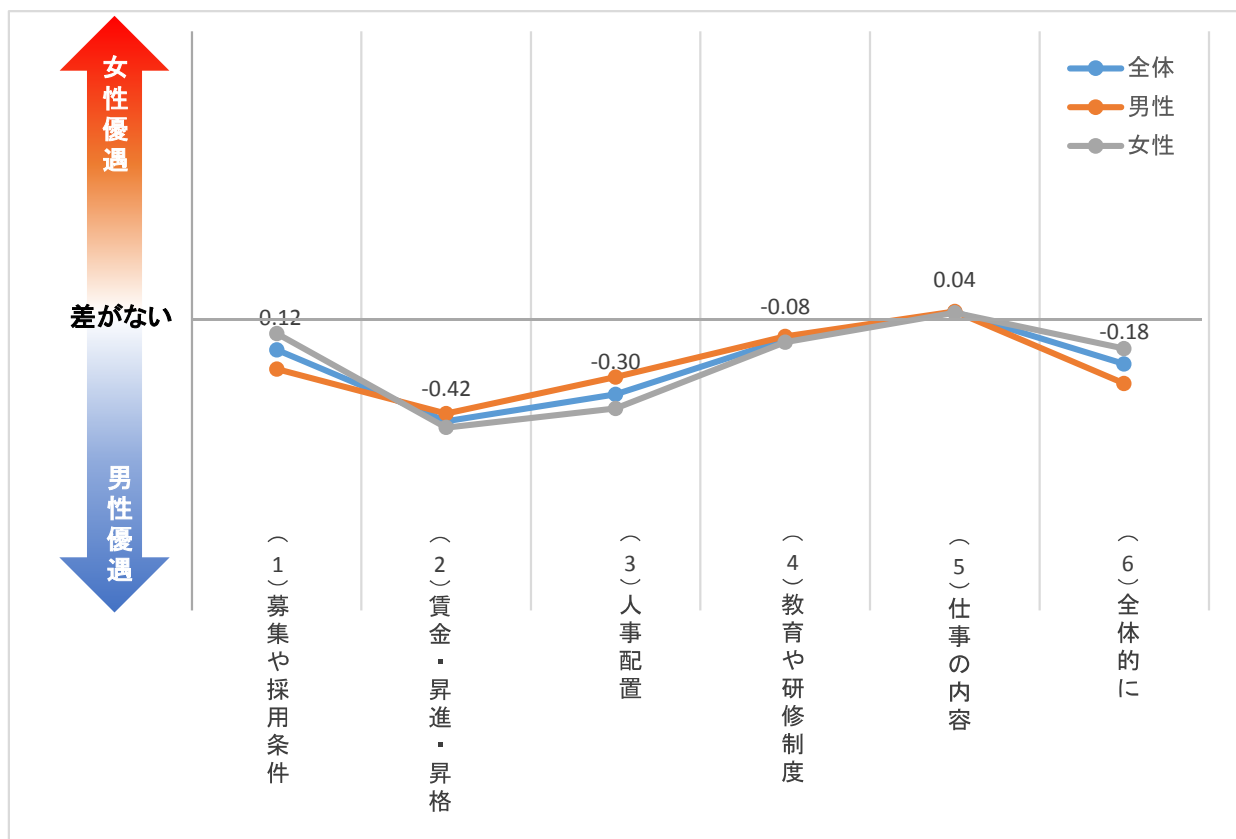
※各回答を以下のとおり得点化し、回答数で割り戻して数値化したもの

「男性の方が非常に優遇されている」＝－2点

「どちらかと言えば男性の方が優遇されている」＝－1点

「女性の方が非常に優遇されている」＝2点

「どちらかと言えば女性の方が優遇されている」＝1点



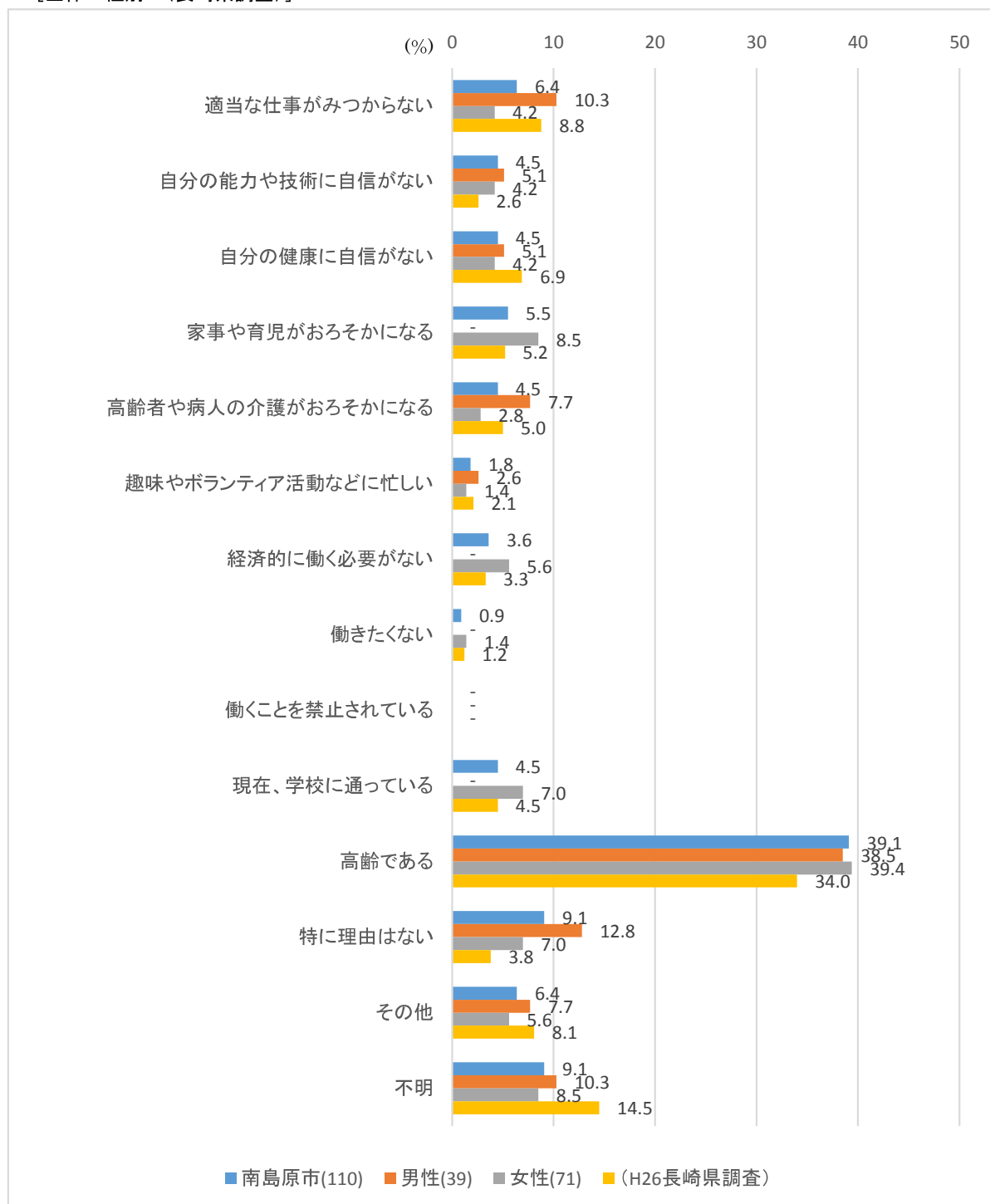
(3)現在働いていない理由

問8：あなたが働いていない理由に近いものは次のうちどれですか。

(※現在働いていない人のみ)

「高齢である」との理由で働いていない人の割合が39.1%で最も高くなっている。この結果は長崎県調査よりも約5ポイント高い。また、男女とも同様の傾向であり、性別による意識の差は少ないと言える。

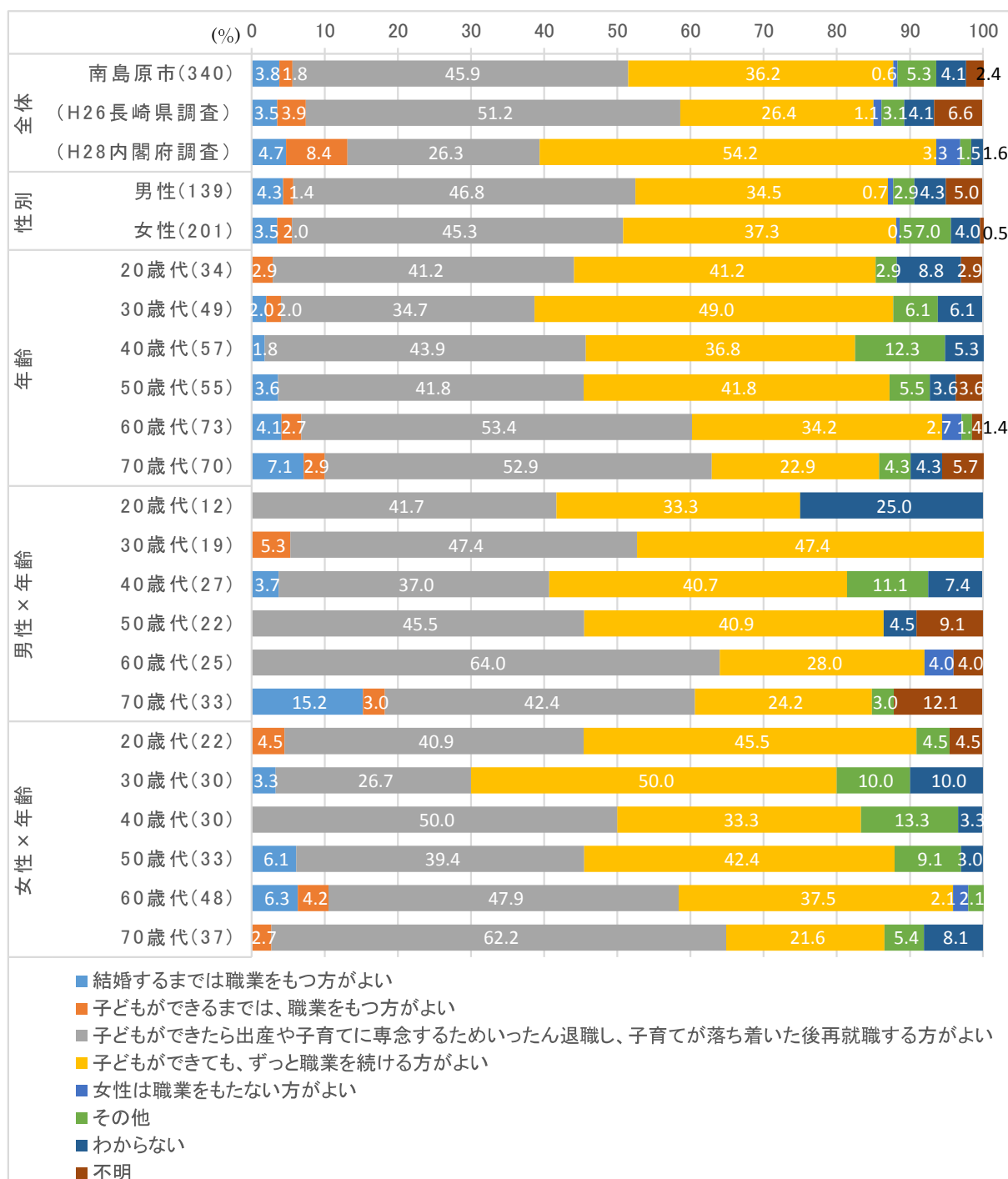
[全体・性別・(長崎県調査)]



(4)女性が職業をもつことについての考え方

問9：一般的に女性が職業をもつことについて、あなたの考えに近いものを1つだけお選びください。

子どもができれば出産や子育てに専念するためいったん退職し、子育てが落ち着いた後再就職する方がよい」と考える人が45.9%で最も多く、次いで「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」と考える人が36.2%となっている。年齢別でみると、20歳代から50歳代は60歳代および70歳代に比べて、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」と考える傾向がみられる。

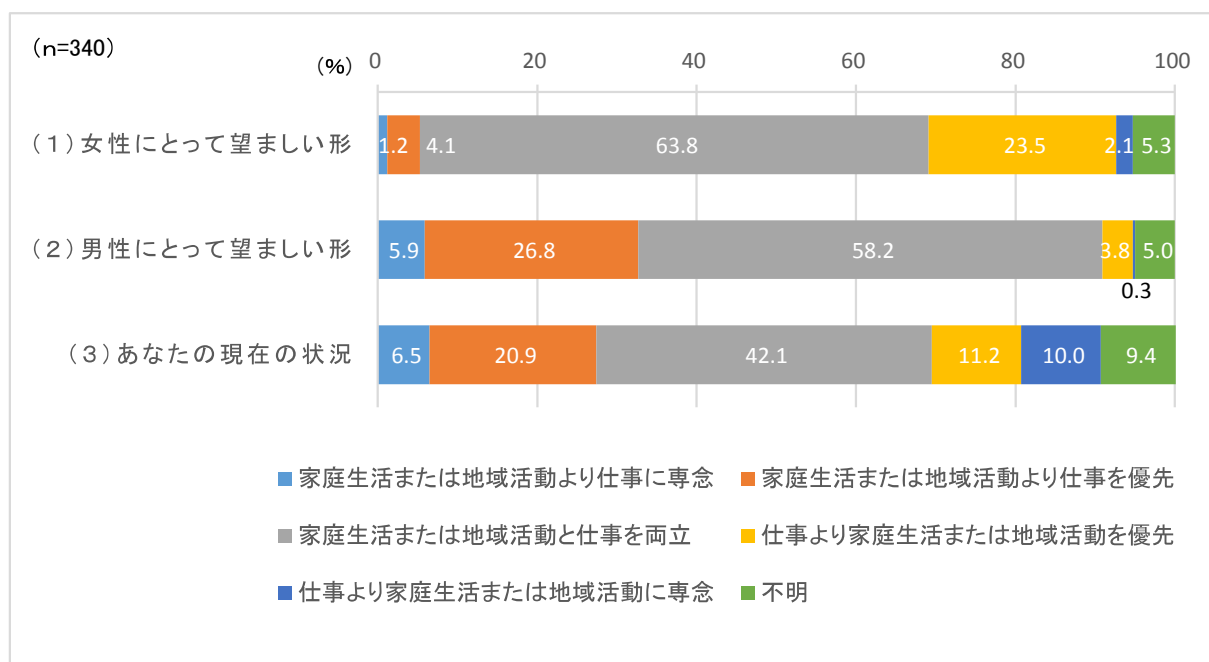


(5) 望ましいワーク・ライフ・バランス

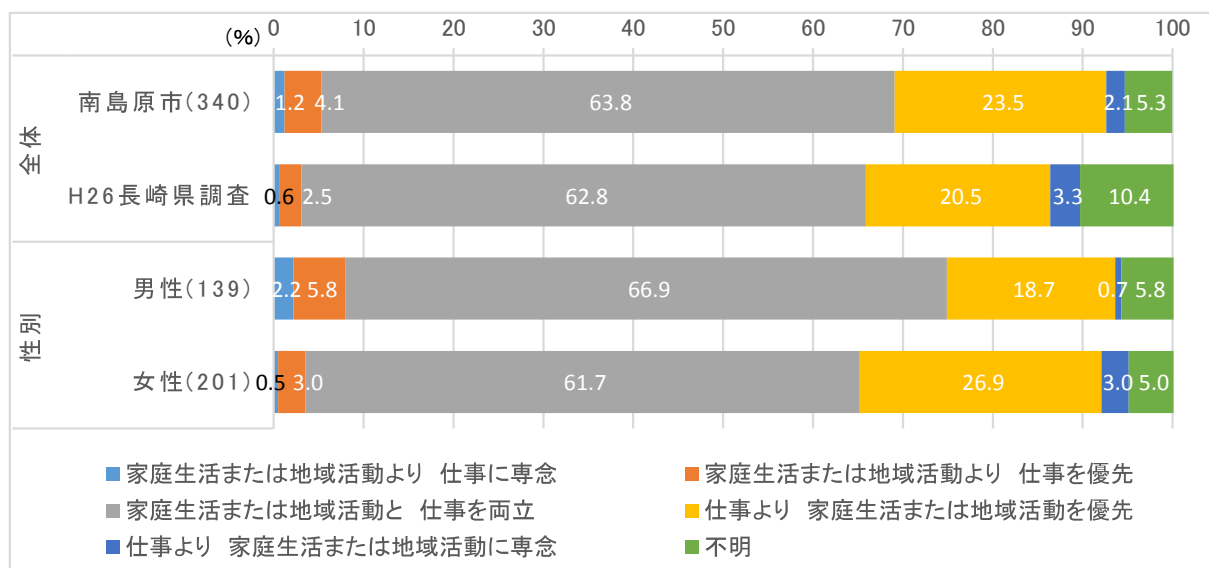
問10：あなたは、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」について、どのようなバランスにあるのが望ましいと思いますか。

望ましい形については、男女ともに「家庭生活または地域活動と仕事を両立」が60%前後で最も多くなっている。次いで、女性は「仕事より家庭生活または地域活動を優先」が23.5%、男性は「家庭生活または地域活動より仕事を優先」が26.8%と男女により望ましい姿が異なっている。

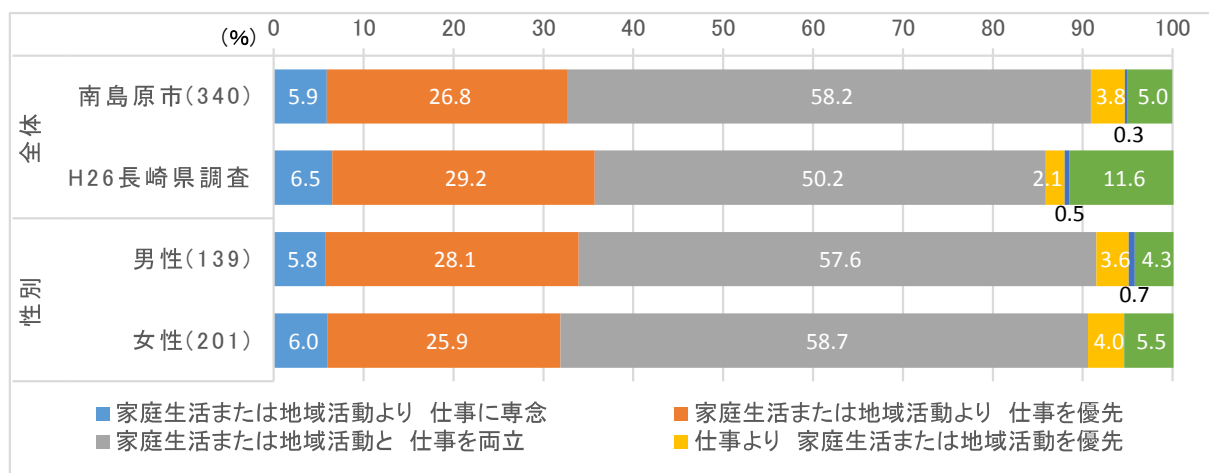
現在の状況については、男女ともに「家庭生活または地域活動と仕事を両立」が40%程度となっている。



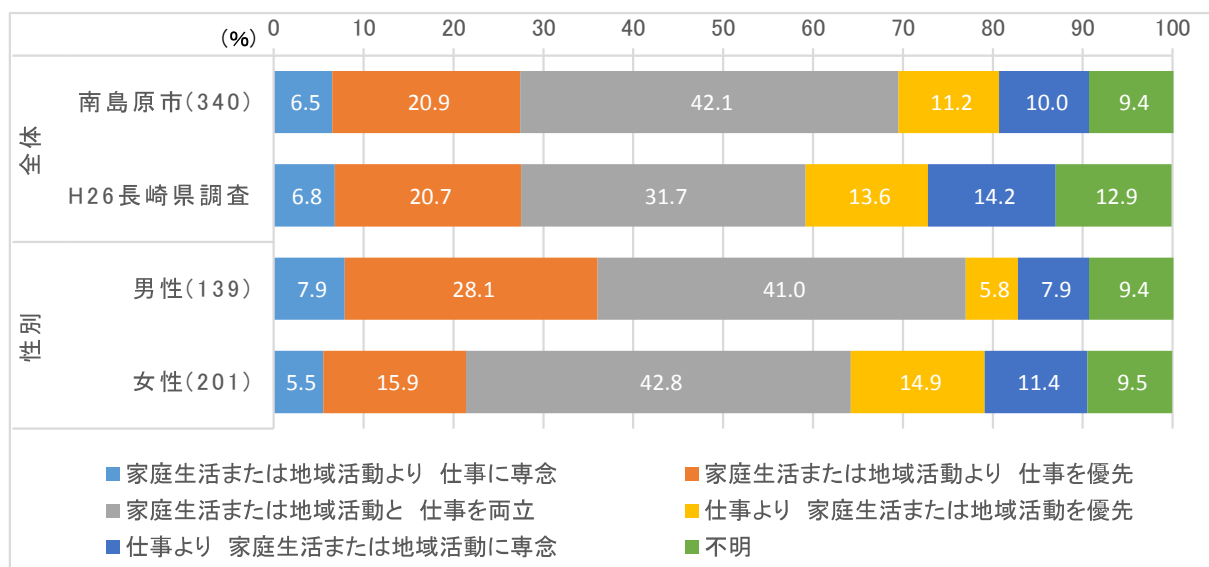
(1) 女性にとって望ましい形



(2) 男性にとって望ましい形



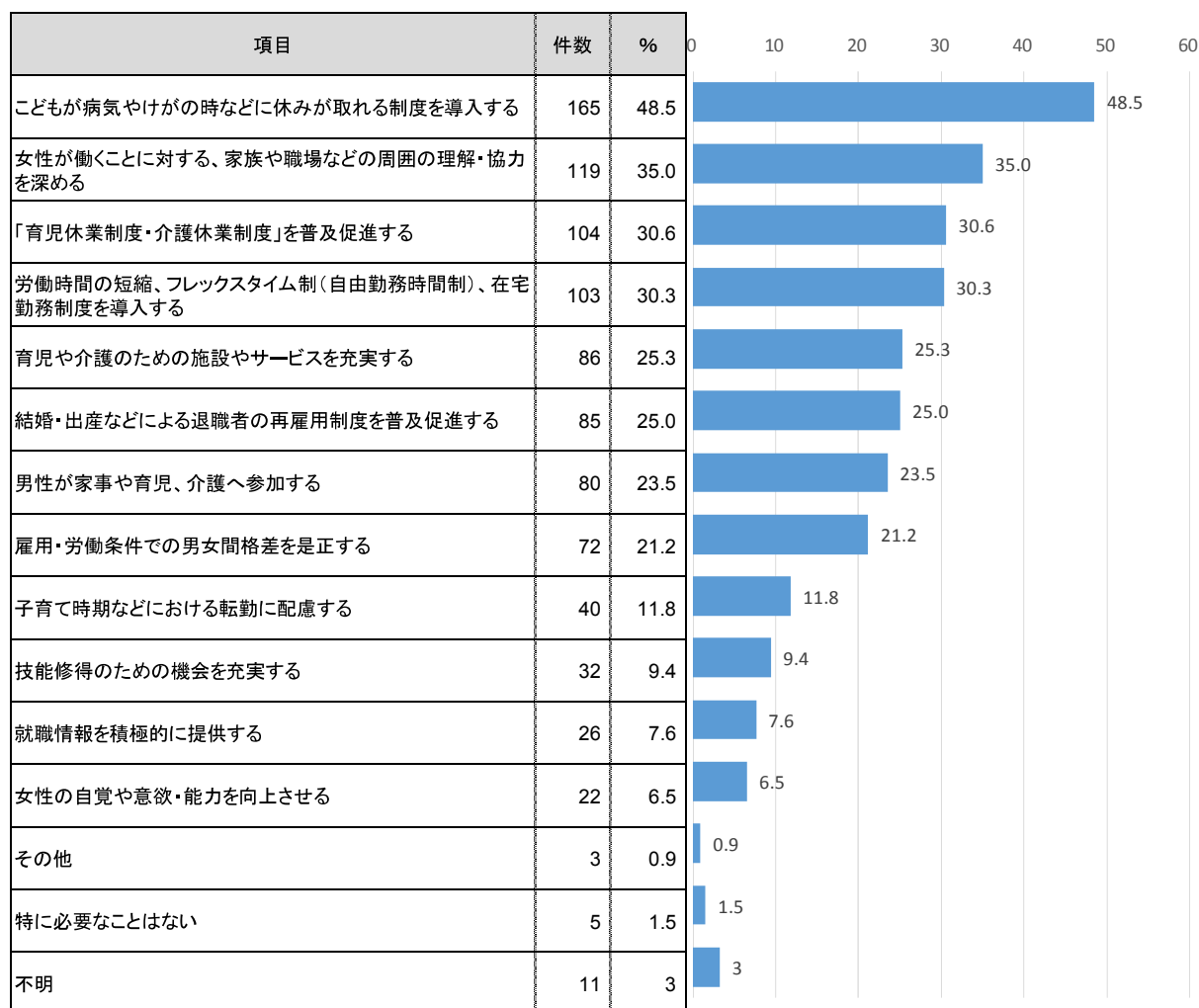
(3) あなたの現在の状況



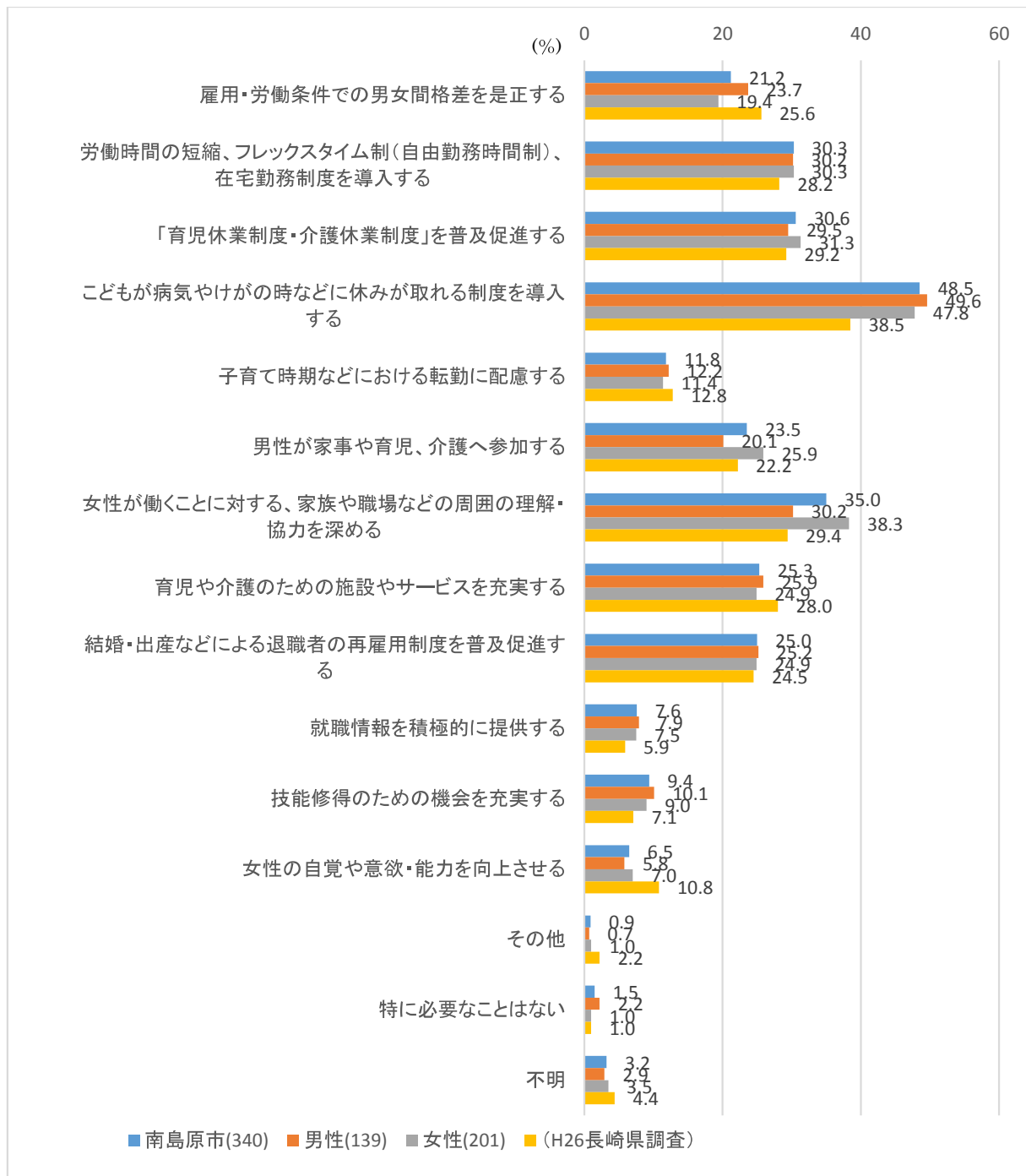
(6)男女がともにワーク・ライフ・バランスを実現するために必要なこと

問 1 1 : あなたは、男女がともに「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」を実現させるためには、今後、どのようなことが必要だと思いますか。（3つまで選ぶ）

「こどもが病気やけがの時などに休みが取れる制度を導入する」と回答した人の割合が48.5%で最も高く、長崎県調査と比べても10ポイント高くなっている。次いで、「女性が働くことに対する、家族や職場などの周囲の理解・協力を深める」で35.0%、「育児休業制度・介護休業制度」を普及促進する」で30.6%の順となっており、休暇・休業や勤務時間などの制度整備と女性が働くことへの理解・協力が特に望まれている傾向がうかがえる。



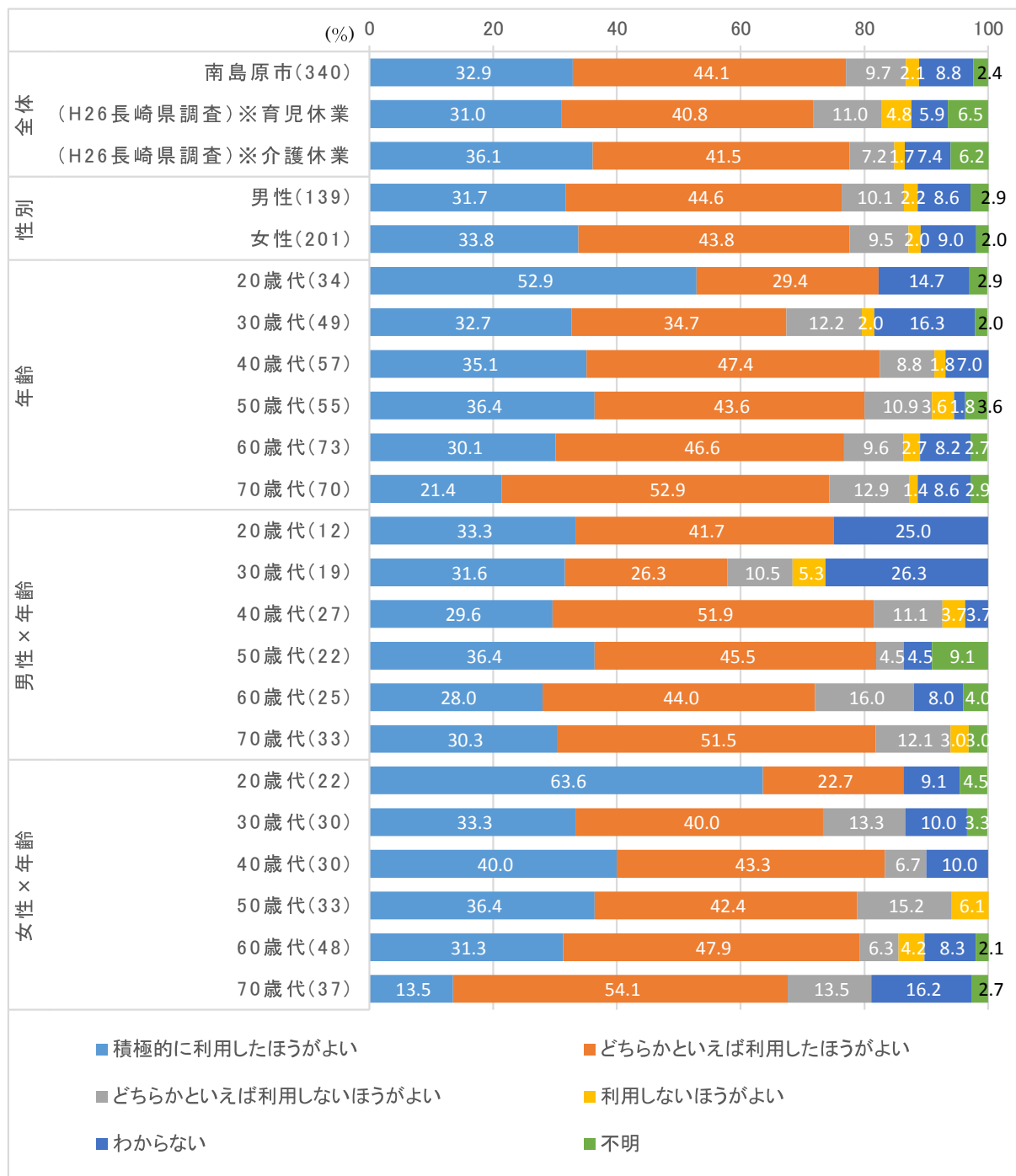
[全体・性別・(長崎県調査)]



(7)男性が「育児休業制度・介護休業制度」を利用すること

問 1 2 : あなたは、男性が「育児休業制度・介護休業制度」を利用することについて
どう考えますか。(一つ選ぶ)

利用したほうがよい(「積極的に利用したほうがよい」とどちらかといえば利用したほうがよい)の合計)と考える人は77.0%となっている。年齢別にみると、利用した方がよいと考える人の割合は20歳代が最も高く、「積極的に利用したほうがよい」の割合は半数を超えている。

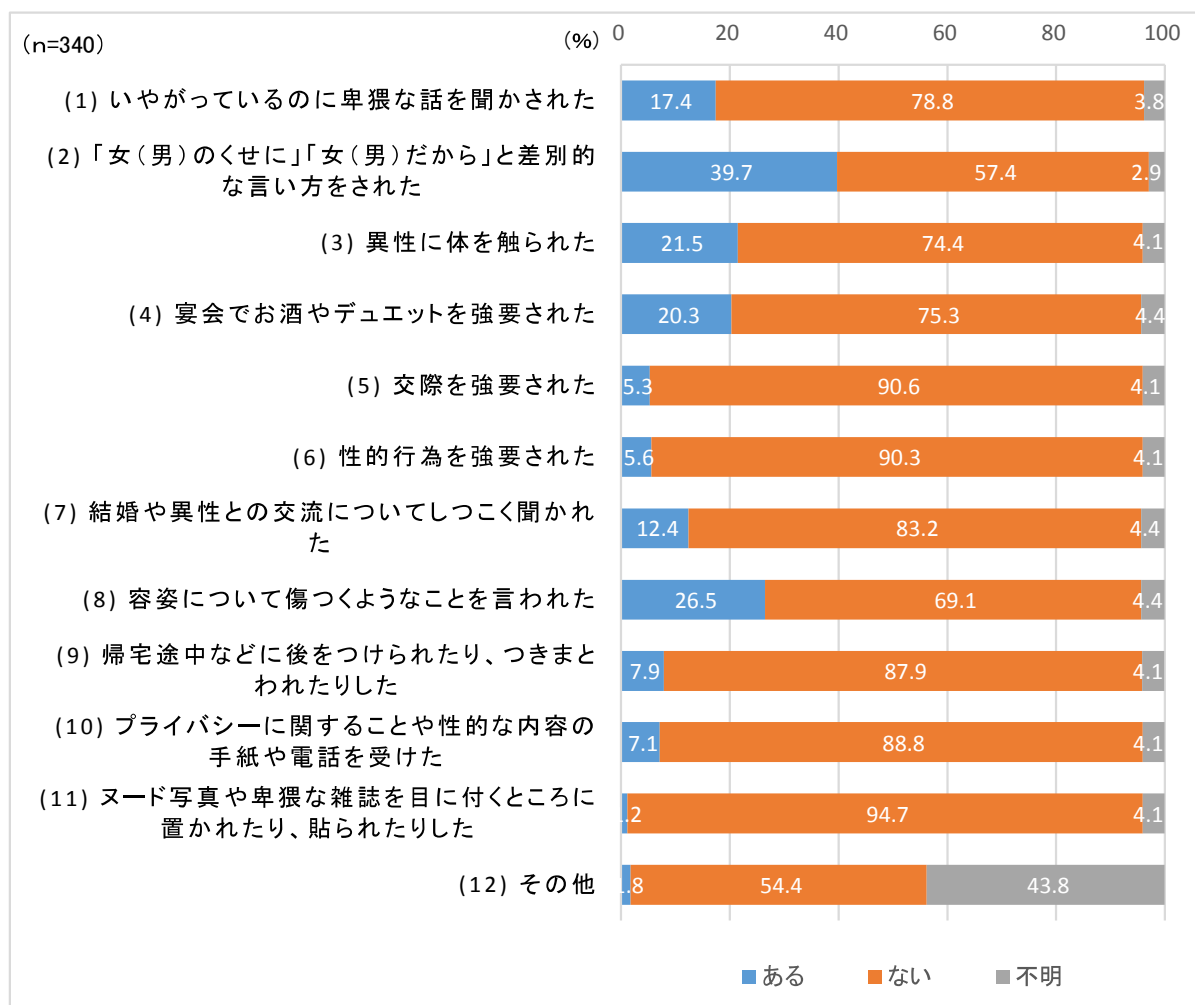


4. 人権(セクハラ・DV)について

(1)不快な思いをした経験

問 13 : あなたはこれまでに、次のような行為で不快な思いをしたことがありますか。
(1つ選ぶ)

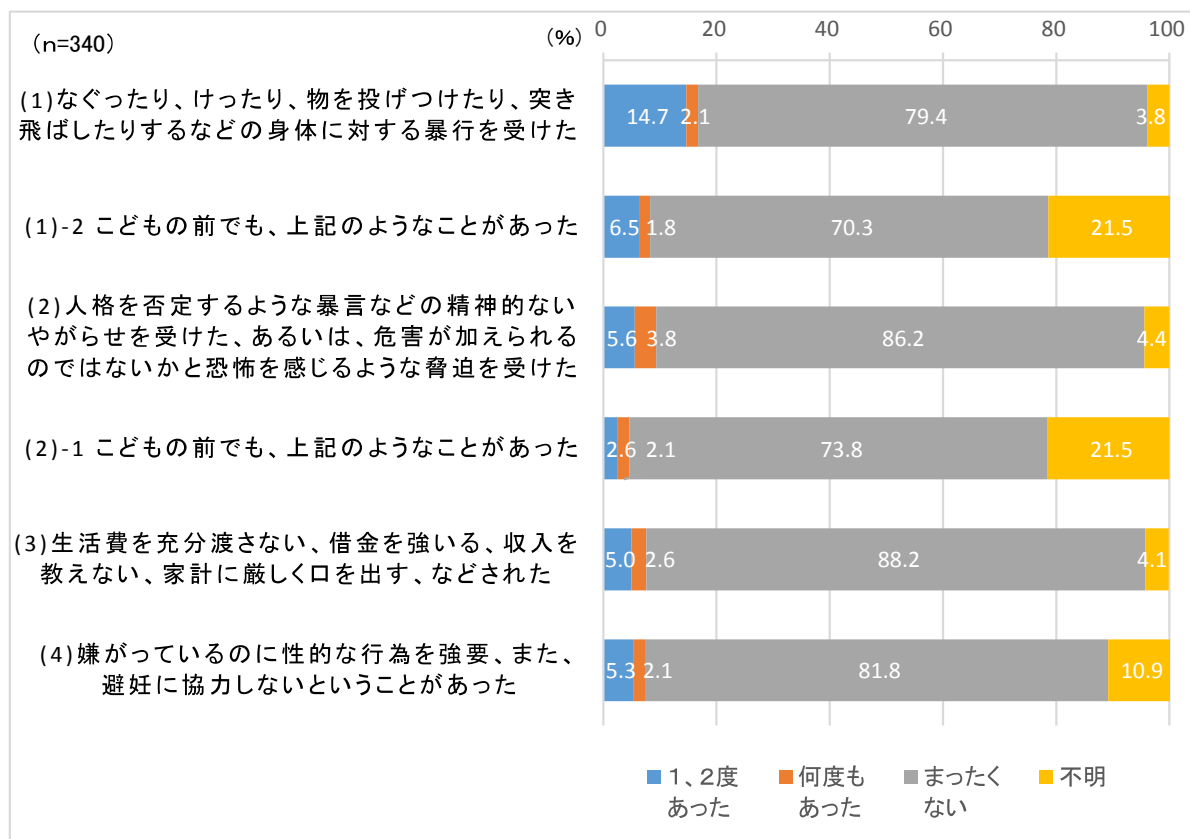
「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた」として不快な思いをしたことがある人の割合が 39.7%で最も高くなっている。このほか、「容姿について傷つくようなことを言われた」、「異性に体を触られた」、「宴会でお酒やデュエットを強要された」の3項目が 20%を超えている。



(2)DV被害に関する経験等

問14:「DV（ドメスティック・バイオレンス）」についてお尋ねします。あなたは配偶者や恋人、交際相手など親密な関係にある（あった）者から次のようなことをされたことがありますか。（1つ選ぶ）

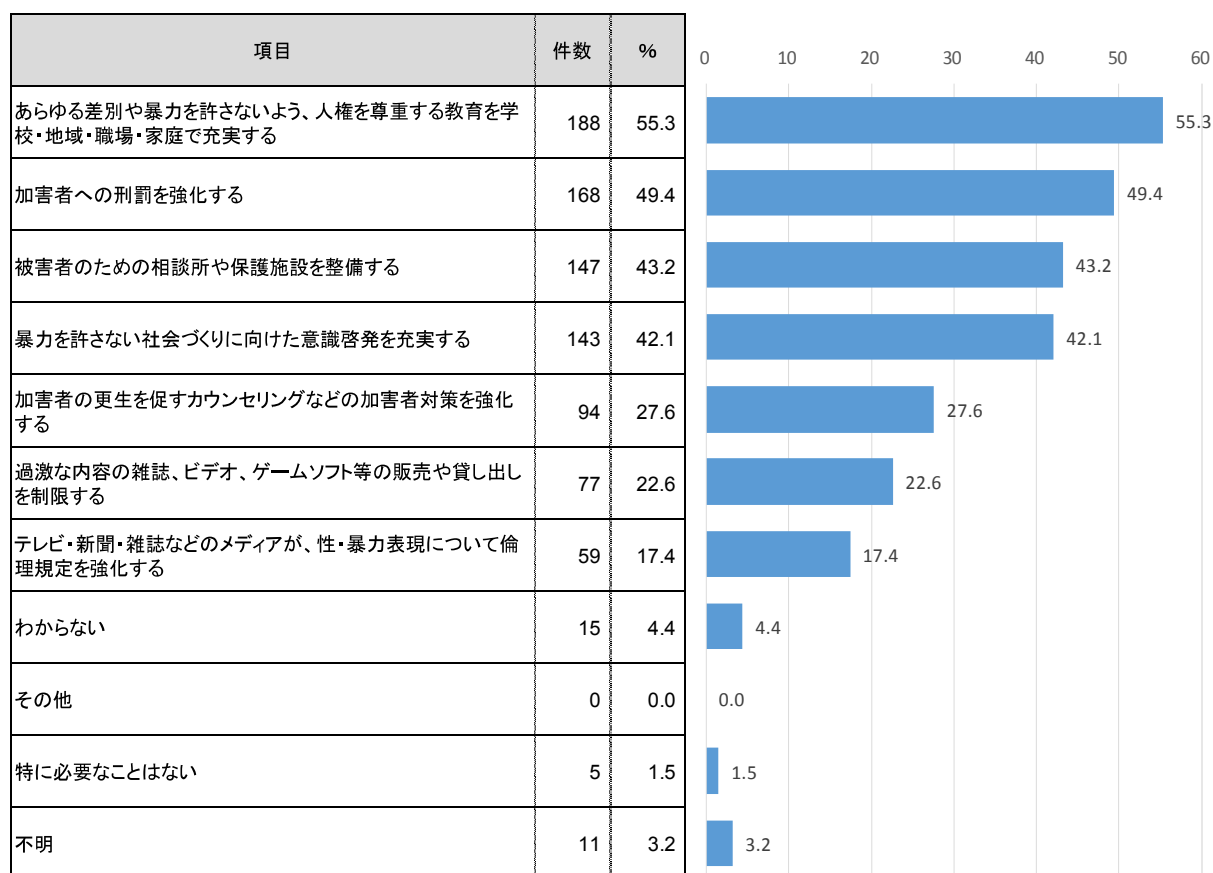
身体に対する暴行を受けたことがある（「1、2度あった」と「何度もあった」の合計）人は16.8%、精神的ないやがらせや脅迫を受けたことがある（「1、2度あった」と「何度もあった」の合計）人は9.4%となっている。



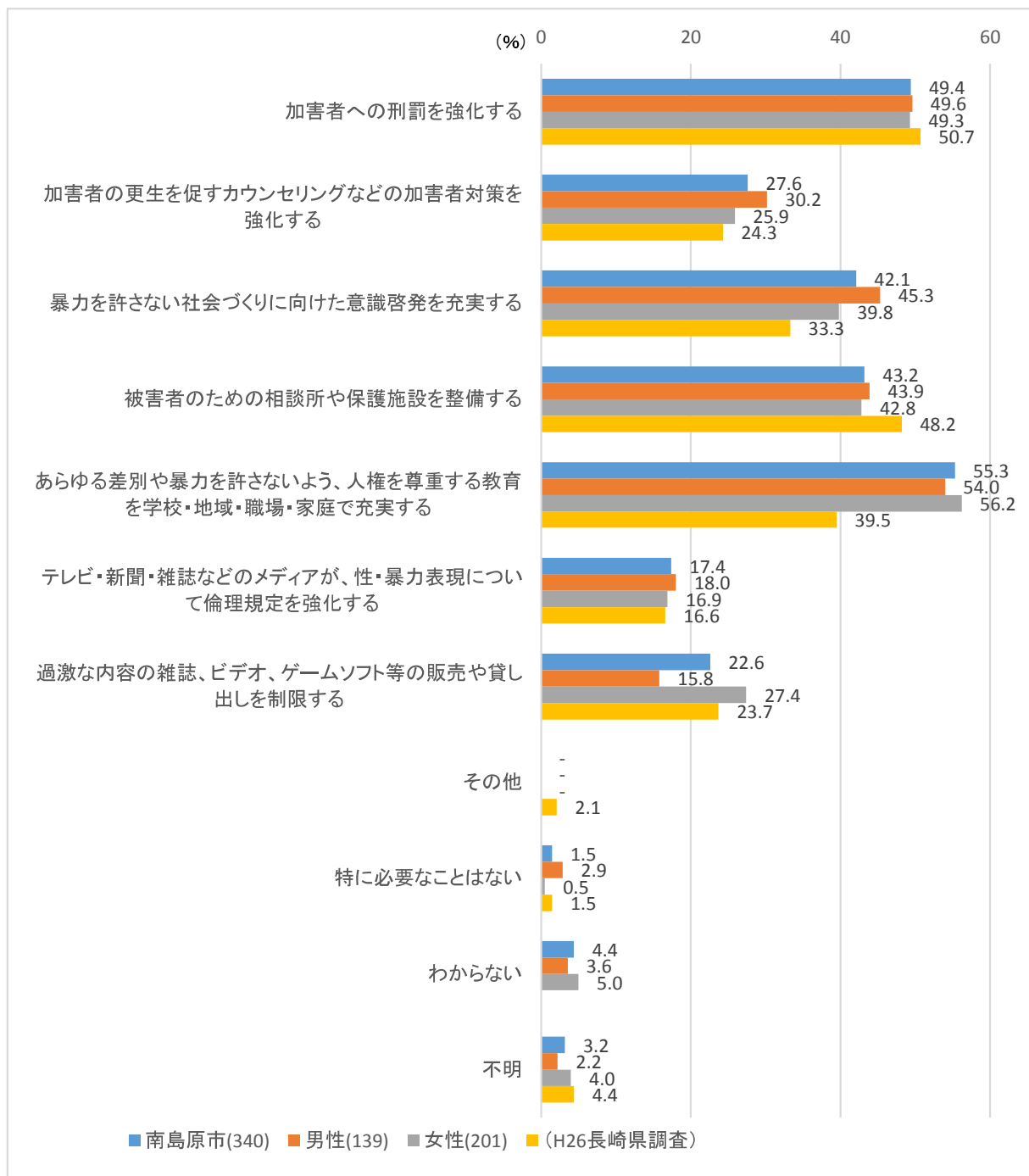
(3)セクハラやDVを防止するために必要なこと

問 15：あなたは、セクシュアル・ハラスメント、配偶者等からの暴力を防止するためにはどのようなことが必要だと思いますか。（3つまで選ぶ）

「あらゆる差別や暴力を許さないよう、人権を尊重する教育を学校・地域・職場・家庭で充実する」と回答した人の割合が55.3%で最も高い。この結果は、長崎県調査と比べても約16ポイント高いなど、特徴的な傾向と言える。次いで、「加害者への刑罰を強化する」が49.4%、「被害者のための相談所や保護施設を整備する」が43.2%、「暴力を許さない社会づくりに向けた意識啓発を充実する」が42.1%でいずれも40%以上と高く、教育や意識啓発の充実が求められている傾向が強いことがうかがえる。



[全体・性別・(長崎県調査)]

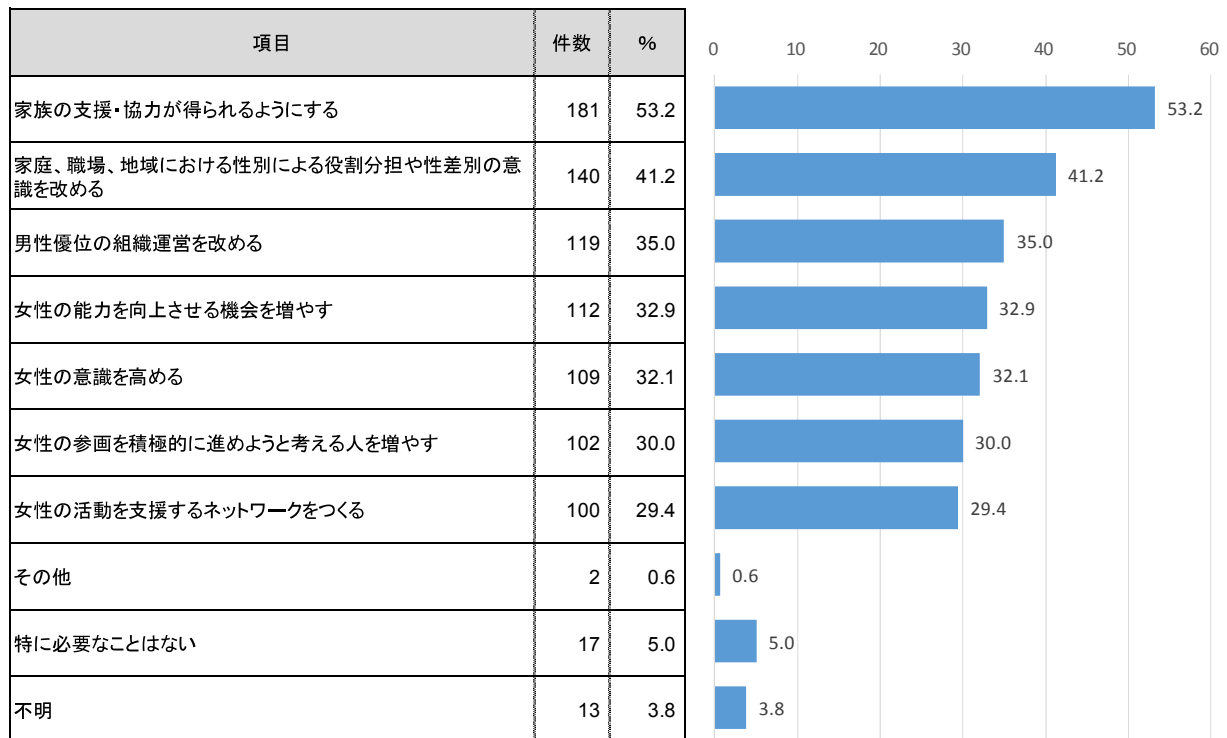


5. 女性の活躍推進・男女共同参画社会づくりについて

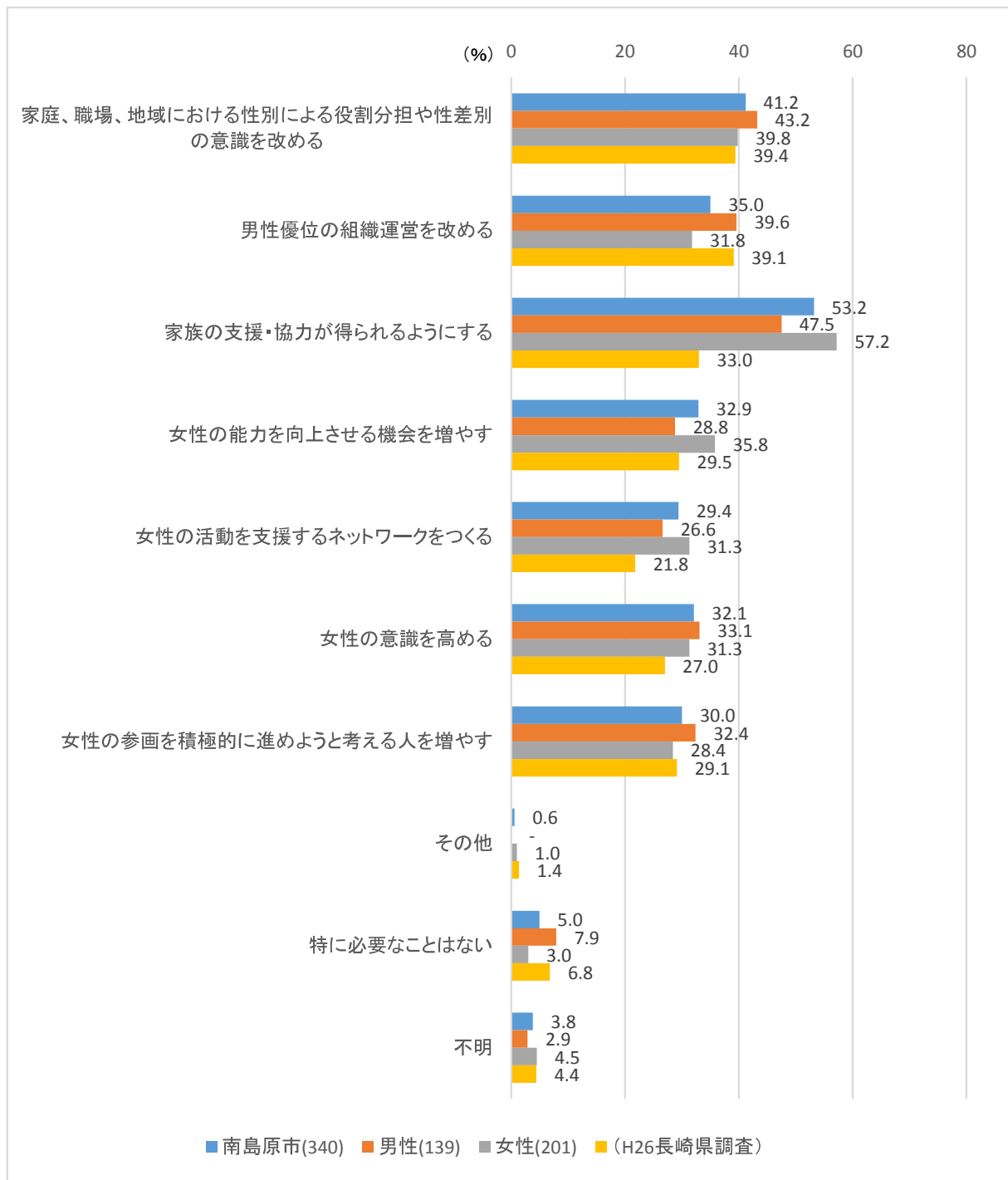
(1) 企画や方針を検討するような場へ女性が参画するために必要なこと

問16：女性の社会進出は進みつつありますが、町内会や自治会の長、審議会委員や議員などには、まだ、女性が就くことが少ないのが現状です。今後、企画や方針を検討していくような場へ女性が参画していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（3つまで選ぶ）

「家族の支援・協力が得られるようにする」と回答した人の割合が53.2%で最も高くなっている。この結果は長崎県調査と比べて約20ポイントも高いなど、特徴的な傾向と言える。次いで、「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識を改める」が41.2%、「男性優位の組織運営を改める」が35.0%の順となっている。続く4項目についても30%前後の回答があり、家族の支援・協力のほか様々な取り組みが求められていることがうかがえる。



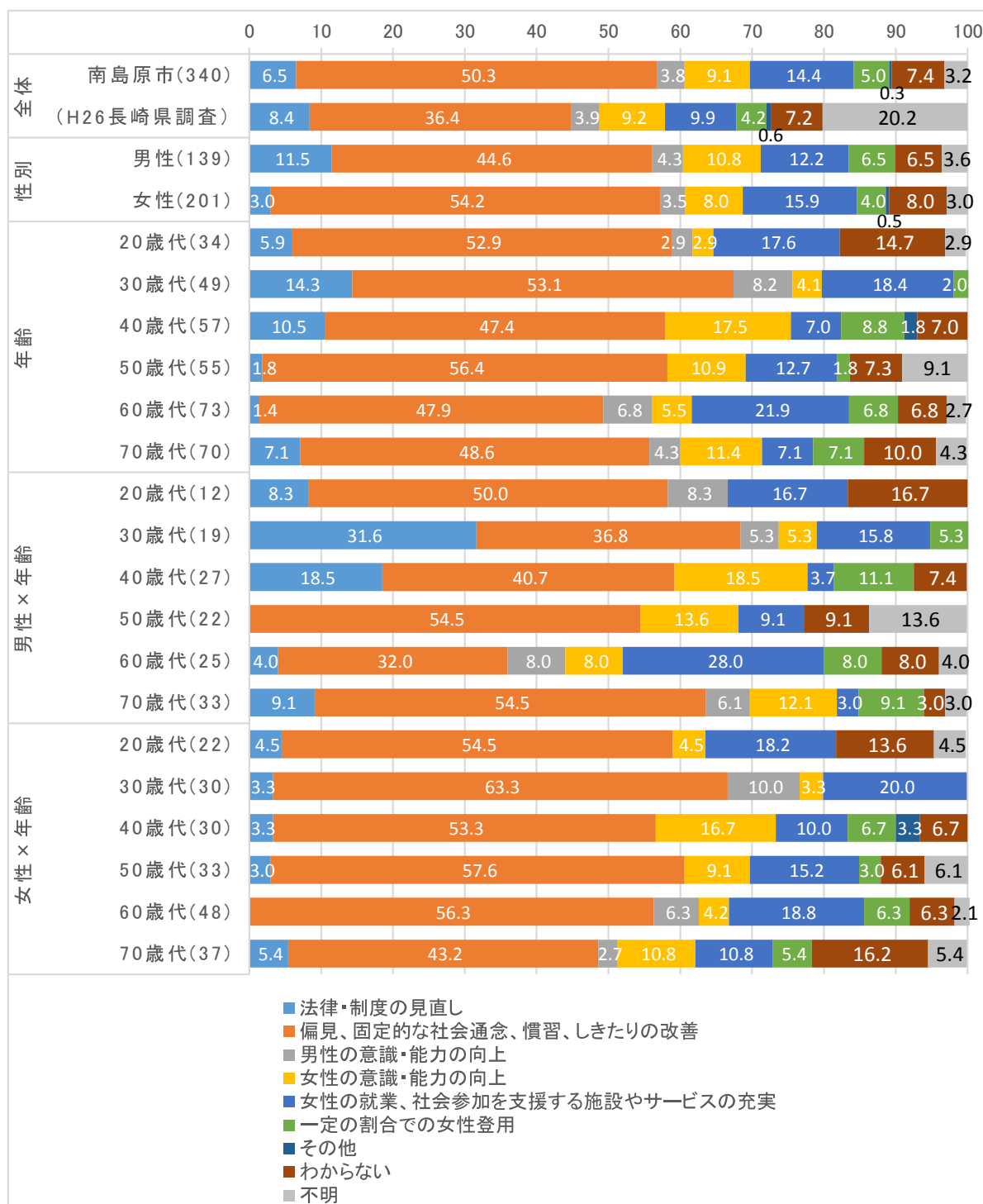
[全体・性別・(長崎県調査)]



(2)男女がともに社会のあらゆる分野にもっと参画していくための最重要課題

問17：あなたは、男女がともに社会のあらゆる分野にもっと参画していくために、何が最重要課題だと思いますか。（1つ選ぶ）

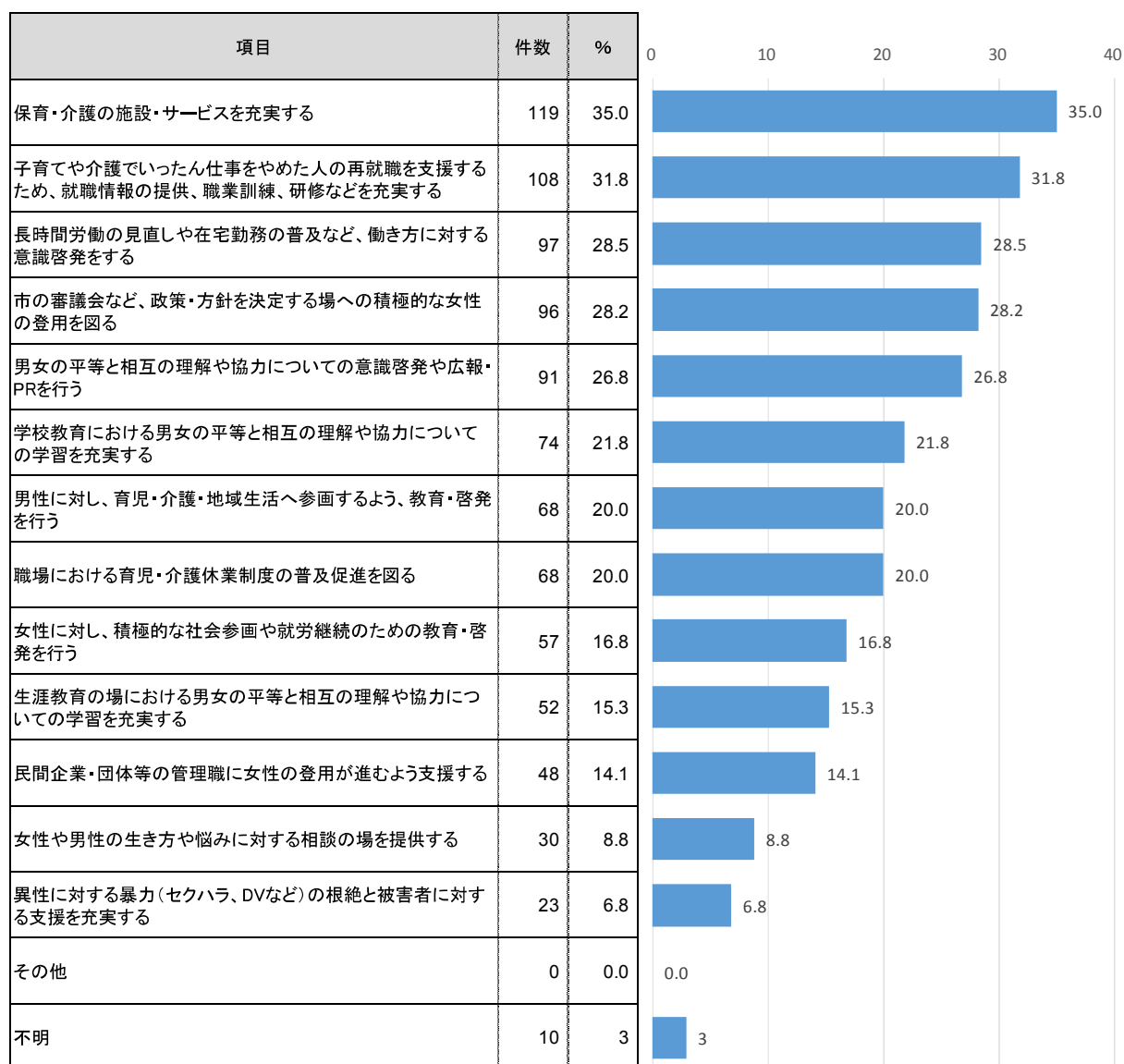
「偏見、固定的な社会通念、慣習、しきたりの改善」と回答した人の割合が50.3%で最も高くなっている。この結果は長崎県調査と比べて約14ポイント高いなど、特徴的な傾向と言える。性別でみると、女性の方がより「偏見、固定的な社会通念、慣習、しきたりの改善」と回答した人の割合が高い。



(3) 今後市が力を入れていくべき施策

問 18 : あなたは、男女共同参画社会の実現を目指して、今後、市はどのようなことに力を入れていくべきと思いますか。(3つまで選ぶ)

「保育・介護の施設・サービスを充実する」と回答した人の割合が 35.0%で最も高い。次いで、「子育てや介護でいったん仕事をやめた人の再就職を支援するため、就職情報の提供、職業訓練、研修などを充実する」が 31.8%で高くなっており、特に子育てや介護等を行う人に対する配慮・施策が求められていることがうかがえる。このほか 6 項目が 20%以上となっており、様々な施策が求められていることがうかがえる。



[全体・性別]

